（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	令和７年　３月　４日	～	令和７年　３月　１１日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	19名	（回答者数）	16名
○従業者評価実施期間	令和７年　３月　６日	～	令和７年　３月　１０日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	８名	（回答者数）	８名
○事業者向け自己評価表作成日	令和７年　３月　12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・乳児期から児童期に至る経験豊かな職員が療育に当たり、必ず記録を取っていることにより、発達のピラミッドを意識した取り組みへとつながっている。	・記録の活用　情報提供書の作成 モニタリングだけでなく、入園・入学に合わせて情報提供書を作成する。	・現在は、情報提供書を使い、保護者への特性理解と支援の具体的な仕方を伝えたり、保護者がより深く子どもの特性を理解することに役立てている。就学先や通院先への説明は通園・保護者にお任せしているが、直接ご説明する機会を設けられるようになるようにしていきたい。
2	・当事業所の中でも各種発達検査を行うことができる。	・標準化されたエヴィデンスを参考にしてアセスメントを行い、できるだけ個人の経験だけに頼らない療育を心がけている。	・地域医療からも信頼される事業所となるべく、アセスメント力の向上と報告書等の記載内容を充実させていく。また、検査結果等が直接的な支援に役立つものとなるように研鑽を積んでいく。
3	・個人情報に配慮しながらも、事業所内だけでなく地域、視能訓練士・言語聴覚士・ヨガ講師（看護師）保健師などの資格を持つ人間が準スタッフとして療育やアセスメントに参加している。	・地域の中にある子育て支援施設・子どもの居場所スペースなどに積極的に出かけて、地域の子育て支援にかかわる方たちと交流を深めています。また、県外の子どもにかかわる専門職にも来てもらい、直接支援や間接的な支援（保護者への啓もう活動等）を行っています。	・今年度は1回、地域の子育て支援NPOと合同でピアノコンサートと作品展を行いました。こうした、地域の他の活動をしている人たちと協力して子どもたちのためになる活動をおこなうことで、地域全体のマンパワーを底上げしていけると考えています。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	防災訓練の情報などが伝わりにくい。	計画的に防災訓練は実施しているが、日によって利用者が変わっていることや天候などに左右され、実際の避難ができずに終わることがあった。担当を決めて、行っていた『つもり』が結局は、保護者に伝わらないという結果になっている。	・年間の防災訓練計画を保護者にわかるように提示する。 また、毎回の計画書をHUGの『活動記録』に入れることとする。
2	・個人情報についての徹底した管理	事業所内の学習室に相談室・事務スペースを併設しているため、面談の時にどうしてもそばにいる職員が聞くようになってしまう。	来年度より、同じ建物内の1室を面談・会議スペースとして借りようと考えている。
3	・きょうだい支援	計画の中では、きょうだい支援を土日などを使い、行う予定でいたが、職員の勤務を増やすことができず、できないでいた。	来年度は土曜日の療育を行う予定。土曜日に関しては、保護者の送迎を基本として、利用者のきょうだいが一緒についてくることも可能であることにしたいと考える。また、今年度同様、茶話会の託児を行う際は、きょうだいの預かりもうける。

（別紙４）

公表　　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	一般社団法人発達支援ますと福島　発達支援センターますと

公表日　令和７　年　3月　14 日

利用児童数　19名　令和７年３月１１日　回収数 １６（内兄弟１）

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	14	1		1	・どの項目に関しても感謝しかありません。 ・多人数ではないので、十分だと思います。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16				・他の施設のことはわかりませんが、ますとのような親身にそしてマニアックで、かつ温かみを感じる施設はそう多くないと思います。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15			1	手洗い場での様子を見た時に自分（こども）にあった高さだったため、すべて一人でできていて驚きました。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16				・活動しやすいものだと思います。	
適切な支…	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	16				・目に見えて成長していく娘を見るたびにここに出会えてよかったと日々感じています。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	15			1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16				・こちらの要望も聞いて取り入れてもらえています。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	16					

支援の提供	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	16					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	15			1	・友だちと一緒にえぼかや公園に行けてることもあり、休みの日に連れて行っても仲良く遊べるようになりました。 ・提供記録を拝見させていただくたびに活動プログラムの豊富さに感動しています。 ・日々、いろいろな支援をしていただき、ありがとうございます。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	14	1			・友だちと一緒にえぼかや公園に行けてることもあり、休みの日に連れて行っても仲良く遊べるようになりました。 ・まだあるかわからないのでどちらともいえません。 ・地域の遊び場に行って、ルールを教えていただいて助かります。	
保	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16				・とても分かりやすく説明してもらえるので助かります。	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16				・令和6年度ペアレントトレーニングに参加させていただいて、とても勉強になりました。茶話会での講義もいつも楽しみにしています。 ・定期的に茶話会が行われていることで知りたかった情報など、共通の悩みを聞けることはとても助かります。 ・ペアトレに参加してとても勉強になりました。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	16					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	1			・面談だけでなく、メールでのやり取りもできるので助かります。 ・いつも心配を聞いてくださり、ありがとうございます。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16				お体に気を付けて、利用者の光であり続けてほしいです。	

護者への説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	14	1		1	・今後、きょうだい同士の交流があるのかを知りたいです。 ・茶話会や様々な講習などを通して、私自身も「誰かに頼っていいんだ」「私だけじゃないんだ」と思えるようになり、少しですが、前向きになれるようになりました。 ・発達特性（グレーゾーン含む）のあるお子さんのキッズサークルを立ち上げた時にも、たくさんアドバイスをいただき、支援していただきました。 サークル中で保護者同士、子ども同士が楽しく活動できているのも、先生方のお力添えがあるからこそです。ありがとうございます。茶話会もいつも楽しみにしています。 ・来年度もぜひ、茶話会など他の保護者さんと話す機会をつくっていただきたい。	
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	16					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16				最近、娘と意思疎通ができたと感じていて、本当に子育てが楽しいです。	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	16				まだまだ、道のりは遠いですが、私もますとととともに成長していきたいと感じています。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	14	1		1	・写真を使う際も一言、確認してもらえています。	
非常時等の対	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	14	1		1	マニュアルがあることは説明の時にお聞きしましたが、娘の利用日に訓練が実施されているかわからず・・すみません。 ・訓練については、まだあまりイメージできない。 ・訓練はしていますか？まだ、受けていないと思うのでわかりません。 ・説明はされていますがどれくらいの頻度で行われているかが分かりません。	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	11	1		4		とても反省するべきだと思います。事業所では、定期的な避難訓練を実施していますし、避難用具なども震災の経験を生かして準備しています。今後、きちんと情報が伝わる用に工夫いたします。

対応	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	14	1		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。		1		2	・特に今まで、けがなどすることがなかったため ・まだ、そういった機会がないので何とも言えません。	
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。					・大好きな先生や大好きな玩具があるので大好きな場所の一つとしています。 ・安心して自分の気持ちも伝えることができる環境化だと感じています。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。		1			・慣れてきたからなのか保育園に行くときのいやいやが復活して「ますとに行く日」と言ってもつられなくなった。 ・お友達に会えるや遊べるなど、楽しいことがたくさんで楽しんで通所しています。 ・ますとさんでお勉強するのを朝から楽しみに、通所させていただいています。 ・毎回楽しみにしています。 ・ますとの利用日はとても楽しみにしています。これからもよろしくお願いします。 ・とても楽しく過ごせていることが分かります。	
	29	事業所の支援に満足していますか。		1			・子どもの成長を促してもらい、困ったこと等は相談に乗ってもらえているので、とても助かっています。 ・いつも支援が丁寧で寄り添ってくださる先生方に感謝しかありません。 ・写真で様子もわかるのでどんなことをしたのか、どんなプログラムを使っているのかわかりやすくて助かります。	

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	一般社団法人発達支援ますと福島　発達支援センターますと

公表日　2025　年　3　月　14　日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		動きが活発なお子さんや利用者数が多い時は、地域の子育て施設、公園なども随時利用している。	子育て支援センターについては事前申し込みが必要となっている。地域の中で柔軟に受け入れてもらえる仕組みを作りたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準定員を満たした配置をしている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		お子さんの特性に合わせて、パーテーションやセンサリーアイテムを使用している。また、	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・常に清潔な環境が保たれている。 ・パーテーションを使い、空間の使い分けをしている。 ・掃除・加湿器の管理を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	○		・学習室、プレイルーム、個室など子どもの活動に合わせて、使い分けができるようになっている。	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		職員間で話し合い改善を図っている。 基本的には、毎週水曜日の午後話し合いの時間を設けている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		茶話会を3か月ごとに開いている。その中で保護者の意見を直接お聞きする機会を設けている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の意見に対して、真摯に向き合い納得のいく仕事ができるように心掛けている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者評価は受けていませんが、他の子育て支援団体とつながり、参考意見などを求めている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		2か月に1回のアドバイザーの高谷教授を招いてケース検討会をはじめ、それぞれの職員が受けたいと申し出のあった研修はできるだけ参加してもらえるようにしている。研修の機会は十分に設けていると考える。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	○		ホームページで早い時期に公表しています。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		標準化された検査を利用して客観的なアセスメントを行っています。また、多職種の職員が残してある記録も大いに参考にしています。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者支援も大切ですが、『子どもの権利条約』内容を常に意識するように心がけています。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		記録を書く際に計画内容に沿って書くように申し合わせて、実行されています。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		とても大切にしています。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5領域にわたり、支援内容が明記されています。基本となるものとして、ガイドラインの他に保育所保育指針と学習指導要領　自立活動編を使用しています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別で支援プログラムを組んでいますが、朝の打ち合わせの場での確認でアドバイスを受け、検討する場を設けています。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		療育内容が固定化しないように特性などにあわせてたプログラムを追加している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		事務室にいる職員同士では、情報や様子を共有できている。 ・毎朝、打ち合わせを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		業務の中で支援記録、各自検証の時間を必ず取っている。内部記録の中で改善するべき点があれば記録している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		計画に沿った記録をしていく中で担当者がまず、モニタリングを記入しそこで検証する流れを作っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療は情報提供書などを渡し、検査結果については保護者を通して持たせるように言われている。保育・教育とは十分に連携がとれているところが多くなっている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保育所からは「個別の指導計画」を受け取り、個別支援計画の中にも反映している。インクルージョンの推進は事業所として取り組んでいる大きなテーマでもある。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学時情報提供書を園と合同で作成し、保護者の同意を得たうえで、園から就学先に説明をしてもらっている。通級指導教室には事業所から直接説明に伺っている。	
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。		○	児童発達支援センターがないので受けることはできない。総合療育センターで一度見学にきている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		１週間に1回は必ず、地域の子育て支援センターに出かける機会を設けています。 ・地域の子育て支援センターなどを積極的に利用している。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		毎回の『サービス提供記録』で写真付きで保護者に情報を伝え、コメントをいただいている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		今年度はペアレントトレーニングを1回とピアカウンセリング4回行っている。ホームページを使い、啓蒙活動も行っている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		1時間以上の時間をかけて行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	○		乳幼児の意思を尊重することは難しいが、発達上のニーズには耳を傾けるように努力している。そのため、最善の利益を優先考慮していると考える。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		モニタリング→アセスメント→原案づくりという段階を保護者とともに丁寧に行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		十分に行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		茶話会の託児はきょうだいも受け入れている。その中での交流の場は設けている。。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		24時間体制で対応できるように心がけている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページは担当者を決めて、定期的に更新している。活動の様子もしっかりと伝えることができている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・面接の際、スペースがないために配慮が十分でないと感じることがある。 ・お子さんのことを伝えるラインでのやり取りなど十分に気を付けていきたい。	相談スペースを確保する必要があります。来年度同一施設内でそうしたスペースを準備する予定があります。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚優位、聴覚優位などの特性も踏まえながら配慮し行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		ピアノコンサートなどを行い、地域の方に参加していただく機会を設け、その中でますとで行っている教材の紹介等も行った。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルについては玄関に貼ってあり、ホームページでも公表している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		定期的に訓練を行う計画を立てている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		母子手帳のコピーをいただき、フェイスシートには健康上の情報を載せる欄を設けている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		行っているが、現在のところおやつを提供するこの中にアレルギーのお子さんはいない。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画は作成しているが、今後より現場で浸透させていきたい。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。		○	契約の際に実際のものをお見せしているが、十分とはいえない。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		しっかりとおこなっている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止の研修を受けたものが伝授するように報告書を回覧、伝達している。	何が、虐待に当たるのかをみんなで話し合う機会を設けたい。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		事前に身体拘束の可能性のあるお子さんには、口頭で説明を行っている。	計画にのせるには、少し書き方が難しいと感じている。